

こんにちは、[姓] [名] 様

SIT COBOL (Smart Interpreter Training COBOL)からのお知らせです。

※このメールは、SIT COBOLのご購入者様、ユーザ登録をされた方、お問い合わせをいただいた方に送付しています。

主な内容

1. SIT COBOL/Standard V11 R2.4.0 のリリースのお知らせ
 2. 自由形式の正書法(COBOL 2002 free-form)に対応しました
-

SIT COBOL/Standard V11 R2.4.0 リリースのお知らせ

2026年10月11日に、SIT COBOL/Standard の最新バージョンである R2.4.0をリリースしました。

以下のダウンロードページより取得可能です:

<https://sit-cobol.sit11.com/download>

今回は機能の追加が中心です。追加した項目は以下の通りです。

追加機能

- **自由形式の正書法(COBOL 2002 free-form reference format)に対応しました。**
従来の固定形式(一連番号領域・標識領域・A領域/B領域・72けたまで)はそのまま使えます。
- COBOL専用エディタで、エクスプローラーでコピーしたCOBOLファイル(.cob/.cbl/.txt)をエディタに貼り付ける(Ctrl+V)か、エディタにドロップすると、そのファイルを開くようにしました。
- COBOL専用エディタの起動を高速化しました。

修正事項

- なし

[詳細] 自由形式の正書法について

固定形式と自由形式のどちらで書かれているかは、プログラムごとにSIT COBOLが自動で判定します。登録集原文(COPY原文)もファイルごとに判定するため、固定形式のプログラムから自由形式の登録集原文を使うことも、その逆もできます。自由形式では、次のように書けます。

```
*> 行のどの位置からでも書ける。1行の長さに制限はない
IDENTIFICATION DIVISION.
PROGRAM-ID. SAMPLE.
PROCEDURE DIVISION.
MAIN-PARA.
    DISPLAY "HELLO" -           *> 文字定数の継続は 引用符+ハイフン で行を終え
        " WORLD".             *> 次の行を引用符で始める
    DISPLAY "HELLO" &          *> 従来どおり連結演算子 "&" でつなぐこともできます
        " WORLD".
    STOP RUN.
```

- 注記は ">" (注記行・行内注記)、デバッグ行は ">>D" です。
- 正書法を明示したいときは、ファイルの先頭に >>SOURCE FORMAT IS FREE (または FIXED) と書くか、コマンド版では format=free / format=fixed オプションを指定します。
- COBOL専用エディタでは、ステータスバーの右端に判定した正書法を表示し、クリックで自動判定/固定形式/自由形式を切り替えられます。
- 手持ちの固定形式のプログラムを自由形式に直すには、COBOL専用エディタの[編集]-[固定形式 → 自由形式に変換]、またはコマンド版の sitcobol_bat.exe to_free=xxx.cob (フォルダも指定できます)をご利用ください。元のファイルは変更しません。

詳細はマニュアル「全般規定」の「自由形式の正書法」をご覧ください。

Standard版とPro版の機能差

以下のリンクよりご確認ください:

<https://sit-cobol.sit11.com/information/>

マニュアル

以下のリンクよりご参照ください:

<https://sit-cobol.sit11.com/manual>

プログラムサンプル集

以下のダウンロードページより取得可能です:

<https://sit-cobol.sit11.com/download>

詳しくは[SIT COBOL公式サイト](#)をご覧ください。

よろしくお願いいたします。

株式会社SIT11

SIT COBOLサポート部

info@sit-cobol.sit11.com